

平成 29 年度第 1 回兵庫県立図書館協議会 会議録

1 日時及び場所

平成 29 年 9 月 26 日（火） 10:00～12:00

2 出席者

協議会委員 廣岡委員 尾崎委員 浅井委員 角本委員 西山委員
石堂委員 笹井委員 久野委員 西野委員 小坂委員

教委事務局 社会教育課施設・管理班（施設担当） 茶谷主幹 三木指導主事

県立図書館 善部館長 清宗次長 杉谷総務課長
西田利用サービス課長 井上ふるさと・資料課長

3 会長、副会長選出

会長に廣岡委員、副会長に尾崎委員が選出された。

4 議事

(1) 平成 28 年度県立図書館事業実績について

次長より資料 1 に沿って平成 28 年度の事業実績を報告

○委員の質問・意見と図書館の説明

(委員) 私は、丹波市から来ているが、丹波の図書館は、朝から高齢者の方でにぎわい、利用者が多い。勤めておられる司書の方々は、囑託ということでなかなか残業もできない中、色々な展示をされている。

県立図書館は、展示に力をいれていると思う。1つの展示を複数月にわたって長期間行われているが、丹波の人たちはその展示を見たいと思っても、ここまで見に来ることが難しい。できれば県立の展示を希望する地域の図書館へ巡回してもらうことはできないだろうか。

(図書館) これまでは、巡回について考えたことはなかったが、県立と市町立とでは蔵書内容が違うことから、展示を出前で持って行くことは良い取り組みだと思う。ただ、県立図書館も行革の関係で職員数が減り常時の業務で精一杯のところがあるので、展示の設営までは行い、展示中の管理を各館に担ってもらえれば負担もそうかからずできるかと思う。今後検討したい。

(委員) 大学や公共施設、専門図書館などの図書館で 20 年間勤務していた。今言われていた展示巡回について、兵庫県男女共同参画センターで勤務した際、「兵庫と東北 つながっ展」という図書だけではなく東北の小物を中心にした展示を行い、県内の希望するところに展示を巡回した経験がある。

地域の小さな施設では、職員も少なく展示内容に苦勞しているところが多い。当時、その展示の担当者は自身ともう一人のみであったが、ダンボール 1 個に全て、展示物や展示方法について作成したマニュアル、複数パターンの展示写真を含めて納め、巡回先には送料のみ負担してもらい、さらに他にも希望がある場合、展示期間終了後、次の展示先へ送ってもらうようにし、経費も片道分のみで済んだ。展示を作成する際に、ダンボールに納めることを念頭において作成すればよく、1つのアイデアとして提案する。

(図書館) 今後の参考にさせていただきたい。おそらく規模の大きな図書館は県立の展示を望まない可能性もあるが・・・。

(委員) チラシを事前に各館に配って希望を募り、県立はスケジュール管理を行うようにするとよいと思う。

(委員) 神戸市では、市内の地域館でそれぞれが展示を行っているが、神戸市としてやりたい展示は、パネル等をセットにして巡回させていた。

(委員) 色々とおもしろそうな講座をたくさん実施されている。参加人数が少ない回が結構多い

ようだが、これからどのように工夫していくのか？PRが足りないのでは？

(図 書 館) 講座実施の際、いつもPRには苦勞するのだが、基本的にはチラシを駅前で配布し、ネットを活用するなどしている。マスコミに資料を流してもいるが、取り上げてもらえないことも多い。今後、もっと積極的な広報展開を考えていく必要があると思っている。良い内容があるのに参加者が少ないことは痛感しているところで、できるだけ多くの方が集まって頂けるように工夫していきたい。

小、中、高生が対象の時は、近隣の学校へチラシを送ったりしているが、大学へは送付していない。今後検討する。

(図 書 館) ホームページに載せれば図書館に関心がある人には「講座がある」ことは理解してもらえらると思う。高齢の方については、館内のチラシを見られている。

ホームページをもっと関心が向くような形にできないかと考えているところである。

(委 員) (広報手段として) ホームページは、なかなか(新規の方は)アクセスしないと思う。

(図 書 館) ホームページは、常日頃から見の人でないと講座に関しても見ないと思う。講座はそれ以外の方々にも来ていただきたいので、できるだけ多様な手段を考え、来てもらうようにしたい。

(委 員) 最近、ツイッターやSNSを見る学生が多い。そういったものを利用してはどうか。

(委 員) PR効果はよくいわれるところだが、チラシやリーフレットの配布先をどこまでどうするか、ということも難しいところだと思う。

(委 員) 資料1 P.3にあるレファレンスについてだが、かなり件数が減っている。経年比較はできないと思うが、電話やメールでの非来館者からの件数も減っているのか？

(図 書 館) メールでのレファレンスは逆に増えているが、最近、自分で(インターネットなどを使って)調べることが多くなっており、図書館界全体的にレファレンス件数が減少し、当館でも電話や来館によるレファレンスは減る傾向にある。

(委 員) レファレンスというイメージが湧きにくいということもあると思う。自分もメールレファレンスを利用したことがある。思った以上に調べてもらい非常に良かった。ネット情報は、どうしても信用ならない部分があったり情報によっては浅いところしか調べられないことがあるが、レファレンスでは、欲しかった部分以上の内容を教えてもらえ、それが図書館のレファレンスの良さだと思った。そういった点をもっとPRすべき。PR下手ではないか？

(図 書 館) PR下手ということは従来より図書館界全体に対してよく言われていることである。レファレンスを経験された方からは好評を頂いているが、確かに図書館はPR下手と言える。今後、「図書館が役に立つ」ということを知らしめていけるようにしたい。

(委 員) ツイッターなど速報性があるものを使って、個人情報には配慮しなければならないが、レファレンス内容そのままは出せないだろうが、こういう内容に対してこのように回答したといったことを出せば、図書館が役に立つということをもっとPRできると思う。

(図 書 館) レファレンスは、図書館にとって非常に大事な機能だと考えており、充実させていかねばという思いがある。今、図書館のホームページで過去のレファレンス事例を掲載しており少しであるがPR効果があるかと思っている。もっとこんな利用の仕方があるということをもっとPRしていかねばと思う。

(委 員) PR効果はよく言われるところで、例えば、高齢者大学でもPRをしていないのではないかとされるが、基本的に興味の無い方は、入ってこられない。リーフレットを配っても置かれたままになってしまっていることがある。何らかの形で考えていかざるをえないと思う。

(2) 平成29年度県立図書館事業実績について

次長より資料2に沿って平成29年度の事業実績を報告

○委員の質問・意見と図書館の説明

(委 員) 過去の会議では、県立図書館としてのあり方と市町立図書館のあり方の違いがわからず、「もっと宣伝しもっと来館数を増やしてみようことを考えては」、と発言した記憶がある。多くの方に来てもらうことも必要だろうが、地区別貸出冊数をみても85%が近隣の限られた地域からで、なかなか遠方に居住する方に来館してもらうのは難しい。もちろん、努力

は必要で、旅行社と提携し、魚の棚見学と合わせた明石公園の図書館の見学ツアーはどうだろうか、とも考えたが・・・。

「図書館の図書館」として役割は大きい。来館してもらうことばかりに重きを置かずに、県立図書館としての役割、アウトリーチで各地域に行き、市町立図書館や図書館以外に対し何か働きかけや導入となることを行い、展開はそれぞれでやってもらう、といった、種を蒔くことに力をいれてはどうかと思う。

(委員) 地区別の利用者数をみると、自身が居住する姫路からは近く来館しやすいにも関わらず、少ないことに驚いた。

新しい図書館には、見学コースのようなものを設定する用意はあるのか？入っていけない場所もあるだろうが、利用者数を増やすのに、小学校勤務の経験から、子どもが図書館内での仕事の内容を見学するコースがあれば学校へPRしていくこともできると思う。バックヤードを見ることができ社会見学の一環として来館する機会があれば、地域の図書館との違いを子どもたちに実感してもらえ、大人になってからも来館してもらえやすいと思う。加えて、読み聞かせや、地域の図書館ではやってもらえないようなこと、ビデオシアターなどはできないか？

(図書館) 毎年、中学生のトライやるウィークや高校生のインターンシップで図書館での職場体験をしてもらっており、体験者からは「今後の参考になった」と好評を頂いたりしている。

書庫を含めた見学コースを作ることは可能だと思うが、そういった取組みは市町立図書館でも盛んにされており県立は蔵書数は多いかもしれないが、書庫に入ってもらっても市町立との差別化は難しいと思う。読み聞かせは市町立でかなり盛んに実施されている。

県立として市町立のモデルになる事業であれば積極的に行っていききたいと思う。将来の利用者である子どもに対する新たな取組みができないか検討していきたい。

(委員) 学校や園に対しては、市町立図書館からのアプローチの方が強く影響力が大きい。地元図書館と高校が提携を結んでいるところもある。

県立図書館の立ち位置について話題にしてもらいたい。

(図書館) 「県立の役割」については、兵庫県だけでなく全国の都道府県立図書館の悩みと言えると思うが、二重行政とも言われかねない市町立の妨げになるようなことはせず、市町立の補完的機能の役割や市町立がまだ取り組んでいない先端的な、モデルとなる取組みを率先してやっていければという思いがある。

(委員) 自身は、あまり図書館を利用したことがない。通りがかりにあっても時間調整や待ち合わせにも本屋を使い、本は嫌いではないが図書館の中まで入ろうとはしてこなかった。委員となって、どんな方が県立図書館を利用されるのか、考えてみた。学生の頃は、「図書館に行って勉強する」という雰囲気があり、利用する人が多かったように思う。図書館は雰囲気づくりをする必要があると思う。本を借りることはせずとも、勉強する場所として図書館に行く、その中で図書館の本を使い調べものをする気になる、そういった雰囲気づくりが大切だと思う。

大学図書館でも利用者が少なくなって、図書館離れが進んできているよう。県立図書館は、いつでも誰でも調べ物ができるよう蔵書を揃えていると思うが、まず「行ってみよう」という気にさせるような雰囲気づくり、催しの実施が必要だと思う。

(委員) あかし市民図書館が駅から1分でいけるようになっており、対して県立は公園の中を17、8分かけてあがって行かねばならない。利便性に差が生じている中、これから本来の明石公園の中という場所でどうしていくべきなのか検討してもらいたい。

(委員) 図書館に長く関わってきた経験の中で思うのは、県立はやはり「図書館のための図書館」という立ち位置を重視してもらいたい。あまり、(利用者数の)数字にこだわる必要はないと思う。どれくらい本が動いているか利用されてきたかが重要。

遠方の者にとっては、地域の近くの図書館が県立の入口で、そこで県立の本を借りられることが最大のメリットである。相互貸借での書物の移動状況、レファレンスの件数、正しい情報を取捨選択しそれに見合った蔵書を揃えておいてくれる、ネットからの情報よりも安心して確実な情報を得られるような状況にする、そういった県立としての役割、武器を大事にして欲しいと思う。

展示を企画し作り上げる作業は、何人くらいでどれくらいの時間をかけて行っているのか？人が少ない中で大変な作業量だと思うが、少し展示数を減らし他に力をいれてもよいのでは、と思う。

- (図 書 館) 展示替えは、月に1回、第3木曜の休館日を利用し司書全員で行っている。
(※展示替え作業は2、3ヶ月ごと)
- (図 書 館) 展示ごとに副担当もいるが、基本的に1人が担当している。1ヶ月ほどかけて本を揃えるところから、POP作りや展示する小物の調達などの準備を少しずつ行っている。
- (委 員) 展示に対する来館者の感想は集めているか？どのくらいの人に響いているのか、次回の協議会で出してもらえたらと思う。感想を集める中で反省点もでてくれば、次の展示に向けての参考になると思う。
- (委 員) 図書館の役割という点で、例えば、資料2-1にある4階での展示内容で言えば、「阿久悠」ならある程度の知名度があると思うが、「島尾敏雄」となると、知っている年齢層は高く限られ知っておられない方も多いと思うが、そういった展示もすることが県立図書館の役割だと思う。しかし、知らない方には響きにくいだろう。本来の図書館の趣旨と来館者を増やしたいという思いとの間にズレが出てきてしまう。そういう微妙なバランスを保ちつつ、また、「電車でGO」という子どもに向けた展示も行う、という取組みを行っておられる。

(3) 兵庫県立図書館 中期運営方針について

次長より資料3に沿って中期運営方針(案)について説明

○委員の質問・意見と図書館の説明

- (委 員) 資料3 P.15の統計によると、岡山県が全ての項目で上位にあるが、何か理由があるのか？
- (図 書 館) 岡山県立は、最近(13年前に)できた館で、よく話題にあがる図書館である。知事が図書館に対し熱心で、児童書は出版された全点を購入する方針を出し、書庫出納も全て機械化されている。最先端の図書館だといえる。鳥取県も資料費が全国第4位であるのは、片山前知事が図書館に力を入れていたからだと思われる。
- (委 員) 岡山県は、素晴らしく、レファレンス専門担当者が各分野別にいる。
- (図 書 館) 新館が13年前、県庁前のよい場所にできた際に変わった。
- (委 員) 図書館は、首長の意向が大きく反映する施設である。高砂市立も市長が思いきられてできたもの。兵庫県立も設立時には明石市立との連携型で新しく、公園内の良い環境にある図書館として評判であった。
- (委 員) 今では、高齢者には、明石公園の中の坂を上っていかなければならない場所は辛いかもしれない。
- (委 員) 新設の高砂市立図書館は自宅から近く、知人も勤務しているが、開館時間から定年退職後の方が多く来館され、中には館内でウォーキングされていたりもする。そういった点は図書館としてはどうかと思うが。
- (委 員) 中期運営方針では、電子書籍については検討していくが導入予定はないことやデジタル化も予算上難しいことも明確にされているようだが、こういったあたりもどうか。
- (委 員) 岡山県では「デジタル岡山大百科」という名称で郷土資料がデジタル化されており、そういったあたりも人気の要因の一つだと思う。
P.15の表では、滋賀県が上位に入っており、図書館が頑張っている印象がある。滋賀県立図書館は、県内に「協力車」を走らせている。全国でも「協力車」を走らせているところが結構あり、県立の本を地方図書館に運ぶ物流の役割に加え、情報を伝達する手段として地方図書館の職員の困ったことなどを吸い上げて県に持ち帰り、ほかの図書館で同様なことがあった際の対処方法の事例を紹介するといった横の情報をつなげる役割をしている。
現在(兵庫県立で)行われている託送はかなり経費がかかっているのではないと思うが、車1台に県職員が2名ほど乗り、本を運びながら情報を発信し、また吸い上げて県内図書館に共有させるようにしてはどうか？
- (図 書 館) 兵庫県でも、配送業者に委託し本を届ける託送業務のほかに巡回業務ということで4年程前までは年に2回、各市町立の中央館を回って意見交換をしていた期間があったが、色々と事情や問題点があり取りやめとなった。
- (委 員) 以前、自分がいた地域の図書館では、協力車が月1、2回くらい回って、展示の紹介も

してもらい借りて展示するなどでき、とても助かっていた。県も職員が少なくなっているが、市町はさらに職員数が少ないので大変な状況で、県から協力車が巡回してくれれば、様々な情報を得たり相談もできる。

(図書館) 現在は、兵庫県図書館協会で、地区別研修会を行いその中で参加者による情報交換会を行っている。形を変え図書館職員の情報交換を行っている。

(委員) 市町立の嘱託職員は、研修会に出席させてもらうことが難しい。実際にカウンターの中にいる人たちには専任者は少ない。現場の意見を中央館でも集めにくい状況である。嘱託職員にも研修にいつてもらえるようなシステムができていない。

(委員) 指定管理体制になり、大きく経費を削減しないとイケない中では出張旅費を出しにくくなっていたり、県の展示を使おうとする場合も、契約上の制限があり、まず教育委員会に伺いをたて承認を得なければならないシステムになっている。どうしても、内向きになっている。とにかく中を活性化させて評価をあげ次期の契約も得ようとするスタイルになっている。研修に行きたい職員や最新のことを学ぶことがおざなりであってはいけない。県立の役割と指定管理制度の間にある問題点、ということになるだろう。

(委員) 「図書館の図書館」として、県内の各市町の図書館と連携しつつ、示せるパイロット事業も行いつつ、利用者を増やす、ということは、非常に大変なことだと思う。

県立のあり方を考えるうえで、キーワードとして「非」があると思う。「非正規」、「非図書館」、「非来館者」の3つの言葉をあげる。

まず、図書館には非正規職員が非常に多い。自身もそうであったが、研修にいかず、研修があることすら知らず、知識が継続せず、1年で人が変わり、引継ぎが困難で個人の技量によって館の情報のレベルが決まってしまう。そういう人に向けた研修が必要だと思う。

そして、「非図書館」は、例えば男女共同参画センターにある情報センターや生涯学習センターにある図書室など、図書館法に則らないところでは、人も情報も少ない。そういったところへ働きかけるような仕組みがあればいいと思う。

「非来館者」は、非来館者へのサービスについてであるが、明石公園に戻れば地の利が悪いことはわかっている。そんな中での広報手段として、固定的な人のみが見るものではなく、SNSやツイッターといった情報が拡散していく方法を使い、図書館のPRキャラクターを作って、こまめな更新と地道な継続により、利用登録していない人の中から図書館のファンを増やすようする。チラシを撒くより特に若い人に向けて効果が高いはずである。

「非正規」、「非図書館」について言えば、昨年、尼川さん（前図書館協議会会長）の講演で学校ボランティアをされている方が本の整理の仕方がわからないと質問され、一緒に話を聞いた。経験なしに図書室の担当になり、本の整理、分類の仕方や資料の活用法もわからず、レファレンスという言葉も初めて聞くような方もいる。こういう方々に向けての事業や連携の形づくりがパイロット事業の一つになると考える。

(委員) 自身は、学校図書館の担当をしている立場であるが、学校へ入ってトイレをみればその学校の生活状況がわかり、図書館をみればその学校の文化度がわかる、と言われている。

中期運営方針として色々と項目をあげられているが、まず、もっとポイントを絞ってはどうか？お金がなく蔵書も少ない状況なら、力をいれるところを1つに決めてはどうか？

行政の世界なので、何か評価を求められるであろうが、例えば、今、大学が基礎研究に経費をさけない状況にあり、このままではおそらく将来的にノーベル賞受賞者がでないだろうという危惧がでてきているのと同様に、今がんばらないと未来の兵庫県の文化度を下げていくことになると思うので県立図書館にはがんばってほしいところ。

どこを目玉としていくべきか。何かアピールできるよう、全国トップ3に入るくらいになれる項目に照準を絞って職員のエネルギーを集中させ、一方でいままで継続してきた地道な運営を続けながら戦略を立てるべきだと思う。

(委員) 大きな示唆を頂いたと思う。公園内に戻った時が新しいスタートということで大事だと思う。コンセプトを焦点化し3本柱もしくは4本柱を立て、それに向かう詳細な取組み事項をまとめていくべき。

(4) その他 報告事項について

次長より資料4に沿って耐震改修工事の工期延長について説明

- (委員) 館内の雰囲気もかなり変わるのであろう。期待している。
- (図書館) 閲覧席数も56席ほど増加する。従前の一人の読書空間を守るという形は若干減の見込み。新たに親子読書室というスペースを設けるが、これは子どもを持つ親御さんに読書してもらおうことを目指して設置するものである。

委員所感

- (委員) これまでの数字をどう読み解いて次の数字につなげていくか、が重要であることを再認識した。また、そのための戦略をどう立てて運営していくか、大変なことだと思うが、やりがいもある。
- (委員) 今日は、色々といわせてもらったが、県立の職員の方々の大変さは想像できる。
資料3のP.9に「障害者サービスの向上」とあるが、在住外国人の方が各地域で活躍することが多くなっており、税金も払われていることから同様のサービスを行うべきだと思う。外国人向けサービスも合わせて謳ってはどうかと思う。
- (委員) 先日、北海道図書館大会で講演したが、道立図書館が音頭をとり道内の様々な種類の図書館から非常勤や嘱託の方も含め多種の任用形態の方々が2~300名ほど参加し、分科会やパネル展示もある盛大なものであった。そういったものがあれば情報交換もすすみ横のつながりが強化できると思う。兵庫県でも研修会を行っておられるが、もう少し大きな花火をあげられると広がりをつくることができると思う。
- (委員) 同じ図書館を管理運営する者として、図書館の使命としてのミッションの部分と経営していくことの両立が難しいところだと思う。
特に、中期運営方針の中で希望するのが、デジタル化についてで、兵庫県としてそこでは資料について進めて行って欲しい。我々も神戸市として持っている資料のデジタル化を行っていかねばならず、同じように予算の厳しい状況にあるが、今後デジタル化は不可欠なことであると考えている。
- (委員) 親子読書室の設置はうれしく思う。
さらに、高校生に対して、高校へ出向くことも含めもっと取り組んでいくべきかと思う。加古川南高校の評議員を長く務めているが、数年前初めて学校評価の項目に「図書室をどのように利用できたか」が加わった。評価項目に入ったことで、力をいれるようになり、色々考えて取り組むようになっていく。目に見えてわかる形にすることも大事だと思う。全県下の高校が評価項目に図書館を入れるように働きかけることもひとつの方策だと思う。
- (委員) 頑張っておられるが、利用者を増やしてこそ（存在価値がある）、ということで、考えていかないといけないことが多くあると思う。シルバーカレッジに利用してもらい、高校生、研究者にも図書館を知ってもらい来てもらうための取組みなど。
親子読書室は、よい取組みだと思うが、市町立でも力を入れているところが多く、高齢者、高校生、研究者に向け広げていくこともひとつの手段だと思う。
- (委員) これまでの経験で得たことから自分ができることと今現在は広報の仕事、ライターとしてお役に立てたらと思う。
- (委員) 子どもの読書活動に対する支援は、市町立図書館が行っているが、図書業務を行う職員に対する支援を県立が担われていることに感謝するとともに、今後とも子どもの読書活動を重視するには指導を行う職員に力がなくてはならず、そこに対するサポートを引き続き行ってほしい。
兵庫の県立図書館の「売り」となるもの、兵庫につける「冠」となるものを焦点化し、1点突破する何かを考えていかれたらと思う。
- (委員) 予算が少なく、人も少なく、地の利も悪いという三重苦をどうしたらいいか。中期運営方針をみていくと、ふるさと兵庫、アウトリーチ、図書館職員の資質向上 ということが大きな目標だと思う。
ただ、ふるさと兵庫の資料を集めても遠方の方がなかなか県立図書館まで来られないというのはひとつの大きな課題だと思う。三重苦の底辺にある今こそ力の出し時だとも思うので頑張って頂きたい。

(委員) 国会には読書活動の議員連盟があるが、県会議員には読書活動を応援する議員連盟はない。党派を超えて一定の人数を確保できると知事に対する声になり動かすことができるかと思う。